

1 私たちの政治

(1) 暮らしと政治

★ 政治とは何か

「政治とは何か」。現代に生きる人々それぞれが、「政治」とは何であるかについて、様々な考えを持っていると思いますが、ある学者は、「おのおの趣味や考え方の違う人々が集まって、どのようにしたら安定した社会をつくることができるか、長い間苦心を重ねた結果造り上げた秩序が政治である。」と言っています。

特に、高度情報化社会、あるいは価値観の多様化の時代などと言われる現代において、私たちは、それぞれにいろいろな好みや欲求を持っています。このような社会で、守るべきルールや共通する目的がなく、人々が勝手気ままに振る舞っていたのでは、世の中のいたる所で対立や争いが起こり、社会の秩序や平和を保つことができないばかりか、国や地域の発展も望めません。

私たちが国家や社会の一員として生活する以上、そこにはルールや目的が必要です。この社会全体のルールや目的を決定する仕組みが「政治」といえます。

★ 暮らしと政治

この政治という仕組みを通じて法律や条例がつくられます。その法律や条例に基づいて、学校や道路など、私たちが社会生活を営む上で必要な施設をつくったり、困っている人を助けたり、感染症を予防するなど、私たち個人の力だけでは成し得ない様々な仕事が行われています。したがって、私たちの暮らしは、政治のあり方によって大きく違ってくるといえます。このように、「政治」は、私たちにとってたいへん身近で重要なものなのです。

(2) 民主政治と明るい選挙

★ 民主主義とは

政治は誰が担うものなのでしょうか。歴史を振り返れば、昔は専制君主や独裁者のように、個人や特定の人たちの恣意によって行われたことがありました。しかし、政治は世の中全体のことを決定する仕組みであり、また、私たちの生活に大きな影響を及ぼすものですから、私たちの意思を反映したものであることが求められます。

日本国憲法では、こうした政治の行方を決定する権限は、私たち国民にあるとするデモクラシー（民主主義）の原理を採用しています。

★ 間接民主主義・代議制とは

しかしながら、実際問題として、私たち自身が政治に関わる全ての問題を直接判断するのは大変なことです。政策の具体的な内容を細かに決定することとなると、恐らく膨大な時間とエネルギーを必要とするでしょうし、私たち全員が集まって話し合う場所もありません。

そこで今日では、民主主義の原理を損なうことなく、合理的に政治が行われるように、「選挙」という制度を通じて私たちの代表者を選び、この代表者を通じて政治に参加するという方法をとっています。このような方法を「代議制」と言い、このようなかたちの民主主義を「間接民主主義」といいます。

★ 民主主義と選挙

したがって、「選挙」は民主主義の根幹を担う極めて大切な制度といえます。政治は、この選挙制度を通じて、最終的には私たち一人一人の意思に基づいて行われるのです。

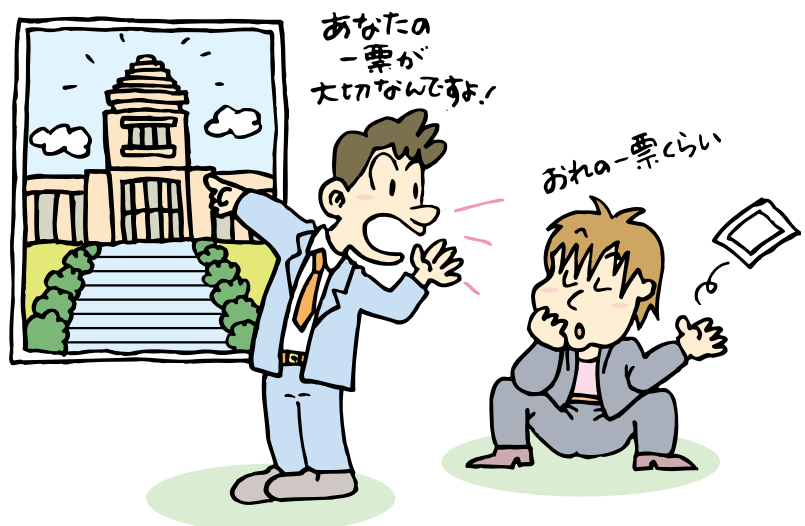
「国民は、その国民のレベル以上の政府を持たない。」という言葉は、このことを的確に言い表しているといえます。高い政治意識を持った住民があつてはじめて、優れた代表が選ばれ、ひいては優れた政治が行われるのです。そして、その優れた代表を選ぶための唯一、最大の機会が「選挙」なのです。

★ 投票総参加

選挙の目的は、私たちの代表者を選ぶことにあり、選ばれる人の数が限られていますから、選挙は代表者の座を巡って、当落を争うこととなります。「選挙戦」という言葉が示すように、私たちも、選挙は戦いであり、その役割は勝敗を決めることにのみあるように捉えがちです。

しかし、選挙の意義はこれだけに止まるものではありません。選ばれる代表者（政治家）にはそれぞれ任期があり、改選されることによって、政治に緊張感を与えます。ひとたび代表者となった人も、その在任期間中にどのような仕事をするか、また、私たちがその代表者の仕事をどう評価するかによって、次にはその地位を失うことになるかもしれません。選挙は、代表者が権力を濫用することを牽制し、政治を浄化する役割も担っています。

また、当落のみならず、選挙における得票の多寡も重要な意味を持っています。



政治家の側から見ると、選挙は、自らの政治活動の信を問う最大の機会です。当選するにしても落選するにしても、どの程度の支持を得られるかによって、政治家は今までやってきた仕事や、今後進めていこうとする仕事に自信を深めたり、反省したり、あるいは勇気づけられたりすることがあるでしょう。

このように、私たちの投ずる一票は、いろいろな意味で今後の政治の行方に関わっていきます。「私の一票ぐらいは」と棄権することなく、積極的に投票することが、民主主義を守り、政治を私たちの手に留めておく有力な手段なのです。

★ 明るい選挙

私たちの民主主義を守り、政治をより良いものにするためには、まず、私たち全員が投票することが必要ですが、それと同時に、選挙の仕組みが公平なものであり、不正のない明るい選挙が行われることが必要です。公職選挙法は、公正な選挙が行われるように様々なルールを定めていますが、私たち自身も、公正で明朗な選挙を行うという意識を持たなければなりません。選挙に買収や供応（39 ページ参照）がつかまるとい、私たちがしがらみに惑わされて投票するようなことがあっては、私たちの意思が政治に反映されませんし、民主主義の健全な発展も望めません。

私たちは「清い一票」の意味と価値を十分に自覚し、民主主義を歪めてしまう不正を排除しなければなりません。このようにしてはじめて、選挙が正しく機能し、私たちの意思を正確に反映した政治が行われることになるのです。

明るい選挙はカネより心

